



Fig.5 NEWS Scoring(重症度リスク表示)



Fig.6 Patient Manager(患者別状態・タスク表示)



Fig.7 Discharge Tasks(患者別DPC状況・退院調整表示)



Fig.8 Staffing Forecast
(部署別業務量および看護力表示)

【結果】

- 病床全体の稼働状況をリアルタイムで可視化でき、緊急入院時の病床決定時間が短縮された。
- 12日間の入院退院・空床推移表示により入院コントロールが可能になり、診療科・病棟の稼働率改善と適切な病床設定の検討に寄与した。
- 検査・手術等の出棟予定の可視化により検査漏れや準備不足が減少し、計画的業務が促進された。
- NEWSスコアの可視化により潜在的な急変リスク患者を共有でき、RRTラウンド対象患者の選定やICU病床管理の改善に繋がった。
- 患者別タスク表示とアラート機能で業務見落としが減少し、退院支援ではDPC期間の把握と優先度管理が容易になった。

- Staffing Forecastの試行により応援調整や時間外勤務削減の方針立案が可能になり得る。

【考察】

コマンドセンターによる可視化は単なるシステム導入にとどまらず、多職種連携や役割理解、信頼関係構築と組み合わせることで効果が最大化される。DXはツールであり、組織文化としての共通言語と共創・共業の仕組みが不可欠である。

【結論】

コマンドセンター中心の医療DX導入は、病床コントロールと人員配置の最適化を通じて看護業務の効率化と負担軽減に寄与し、「働きやすく、働きたい」と思える高度急性期病院の看護体制へ向けた変革に繋がる。